

イネミズゾウムシの兵庫県下での産地 (兵庫県甲虫相資料・174)

高橋 寿郎

1976年愛知県常滑市で発見されその後年間約20Kmの速度でその分布を拡げて1984年には日本で北海道と沖縄を除く45県に分布が確認されたと云うイネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus* Kuschel。兵庫県下(淡路島も含む)には1981年に分布発生したとある(桐谷, 1984)。

いわゆるイネの害虫であるから対馬海峡をわたって朝鮮半島にまで分布を拡げてゆくのではないかと云われている。従って兵庫県下にも広く分布しているのではないかと思われるのだが具体的に何処にどの様に分布しているか云う記録を筆者は全く知らない。どなたか御教示頂くことが出来ればと考えている。たまたまこゝ1, 2年の間に筆者自身本種を県下で採集しているので此処にその産地を記録しておくことにしたいと思う。

神戸市谷上 6♀, 1-VI-1986, 2♀, 6-VI-1986。

谷上の鰻ノ手池畔のヨシをすくって得た。

美濃郡吉川町 1♀, 16-VI-1985。

美濃郡吉川町奥山 1♀, 8-V-1986, 1♀, 17-V-1986。

こちらは中国自動車道を挟んで北と南に位置する地点でこのあたり酒米の産地として有名な地域である。恐らくこの地域一帯には本種は分布していそうである。尚近くの三木市口吉川でも採集している。1♀, 16-V-1986。

本種が日本ではメスの単為生殖をしていることは良く知られている(原産地は北アメリカでアメリカではオスがいるとのこと)。成虫態で越冬しチガヤ, ススキなどイネ科雑草を摂食し田植が始ると水田に侵入してイネの葉を食べる。成虫は水中, 水面を容易に泳ぎ5月上, 中旬頃から水際付近のイネの葉鞘に産卵すると。

最近とかく話題になっているゾウムシで次の文献には詳しく解説されているので大変参考になる。

桐谷圭治, インセクトリウム Vol. 21, №9, pp. 248-253, 1984。

諸橋公徳, 昆虫と自然 Vol.20, №1, pp. 31-32, 1985。

森本 桂, 日本の昆虫, pp.134-135, 1986(東海大学出版会)。(JULY. 1986)

付記:その後「イネミズゾウムシの防除」編集委員会編『イネミズゾウムシの防除』(175p. 日本植物防疫協会刊, 1986)を見る機会を得た。それによると本種の兵庫県での初めての発見は

1981年大阪府境の川西市と猪名川町の山あいとなっており、1983年淡路島や日本海側の但馬地方にも及び、1984年淡路島で大巾に拡大、県西の岡山県側を残すのみとなりとあり具体的な産地の記録は出ていなかった。一冊の本としてとりあげる程全国的に大きな被害を与えているゾウムシのようである。尚本誌上に森氏が記録されているように神戸市の藍那にも多くいる。

(AUG. 1986)

ワモンナガハムシ六甲山上にて採集 (兵庫県甲虫相資料・175)

高橋 寿郎

ワモンナガハムシ *Zeugohora (Pedrillia) annulata* (Baly, 1873) は小形(体長4.2-4.8mm)ではあるがなかなか美しいハムシである。戦前(1937)『日本の甲虫』創刊号に神谷一男氏が関口俊雄画伯の手になる原色図で本種を図説され(pl. 1, f. 3, p. 2-3。Pedrillia 属で和名はセボシハムシとされていた)でこの美しいハムシをなんとか自分の手で採集したいものだと眺めたものである。筆者自身で採集することの出来たのがそれから20年たった戦後1956年養父郡氷の山においてであった(2exs., 27-V-1956)。その後 *f. biguttata* (Kraatz) と云うのを宍粟郡音水で採集した(1ex., 4-V-1972)。現在にいたるまで筆者はこの3頭しか採集したことがなかった。兵庫県下の記録も大変少い。最近磯野昌弘氏は美方郡浜坂町宇都野神社、城山、観音山での採集例を報告しておられるがこのあたりには比較的いるようである。県下ではその他に城崎郡金山峠〔高橋、1975〕、養父郡氷の山〔辻、1972〕、美方郡扇ノ山〔辻、岸田、1972〕の記録があるが可成り個体数が少いと云うのかまづ県下では珍品と云える様な状況しかわかっていないし県の南側での産は全くなかった。1986年5月12日六甲山頂へヒラタアオコガネの採集に行った際灌木を網で拘って1頭採集することが出来た。驚くと同時にこゝはと思う所を可成り念入りに拘って見たがこの1頭のみで後は採集出来なかった。六甲山系からは初めての記録でありその出現期からして調査が充分でない点もあると思われるがこの様な珍しい種がまだ六甲山系にいたることがわかって大変喜んでいる。もっと詳しく調べて見なくてはと考えている。因に本種の食草はマユミ・ニシキギ・クロヅルなどとなっている。分布は北海道、本州、四国、九州、シベリアと広く大方の図鑑には図説されていて考え様によってはそれ程珍しいものではないのかも知れない。(その後5月25日神戸市の谷上で神戸生物クラブの採集会が実施され森 和夫氏と御一緒した際、森氏が既に摩耶山で 1ex. (11-VI-1967, K. Mori leg) 本種を採集していることを御教示頂いた従って今回筆者のものは六甲山系からの初めての記録ではないことになる。だが個体数の少い種であることは間違い無い。御教示頂いた森氏に厚く御礼申しあげる)。(JULY. 1986)